

コミュニティの社会構造と児童の遊び場

——西宮市段上小学校区の事例——

倉 田 和 四 生

はじめに——段上地区の発展

- (1) 児童と遊び
- (2) コミュニティの社会構造
- (3) 児童の生活構造と遊び
- (4) 遊び場と遊び仲間
- (5) 欲しい遊び場
- (6) 子供会と体育振興会の活動
む す び

はじめに

都市化の進行にともなって地域社会は急激に変化していく。すなわち地域開発によって田園や山野は住宅地に変容するが、その際、まず地区全体の開発計画を作成し、これにもとずいて道路やオープン・スペースなどの公共用地を十分に確保出来る場合には余裕のある快適な住環境の形成が可能となる。しかしもしそうでない場合には無秩序なスプロール現象が見られ、劣悪な住環境が生み出されるので、子供の遊び場も犠牲に供され、貧弱なものにならざるを得ない。

またモータリゼーションの進行にともなって、これまで子供の遊び場でもあった生活道路に自動車が入り込み、わがもの顔に走り抜けていくため、路上の子供たちは危険にさらされることになる。

(1) 児童の遊び場に関するアンケート調査

このように都市化にともなって、都市における子供の遊び場は次第に悪化するおそれさえある。そこで都市化が進行している地域社会の子供の遊びと遊び場の実態調査を積み重ねその対策を考えることはいま重要な課題である。

ところが幸い地元の段上小学校 PTA の役員と協同して「児童の遊び場」について研究する機会を得ることが出来た。以下は昭和57年に段上小学校の3年生、4年生、5年生、6年生(822人)を対象に実施した調査の報告書である。

(2) 段上地区の形成と発展

西宮市の段上地区は大雑把に言うと西に阪急今津線、北は仁川、東は武庫川、南は171号線と新幹線に囲まれた範域である(図1参照)。

段上地区の起源は、上古、摂津に置かれた軍団の一つに由来するといわれている。近古から中世にかけては、摂津国武庫郡にも多くの荘園が発生したが、その一つに大市荘があり、段上地区はその中に含まれていた¹⁾。

近世に入ると段上村となったが、徳川時代には、初めは青山大膳亮の所領、その後松平氏の所有を経て、尼崎城主桜井氏が領有した。

この地区には旧西国街道が通っていた。この街道は広田、下大市から上大市5丁目と段上8丁目との境界を抜けていた。さらに報徳学園の北側に武庫川の渡し場があった。いわゆる「髯の渡し場」である²⁾。

この渡し場では全長7米位いの木舟に人夫が3人がかりで人馬や荷物を対岸に運んでいた。しかし明治40年に甲武橋の南側に橋がかけられてから、この渡し場もなくなった。このようにみるとこの地区は江戸時代までは重要な街道に面していたことがわかる。

明治40年以後、この地区に大きな影響を与えたのは大正10年、阪急の今津線(当時は西宮線)が開通し、同11年に甲東園駅が設けられたことであ

1) 渡辺久雄『甲東村』葛城書店 昭和17年 42頁。

2) 松本茶太郎「段上今昔物語(-)」

る。当時は駅周辺は人家もない淋しい所であったが、駅が出来てからは除々に通勤者の住宅が建ちはじめ市場も設けられた。

仁川は護岸工事が出来るまで、度々出水していた。そこで大正13年に護岸工事が施工されたが、この改修によって川幅が狭くなったため、旧堤防敷地あとの国有地を払い下げ造成地として売り出された。仁川町はこのようにして形成されたが、その前年、大正12年12月に阪急仁川駅も設けられたので、高級住宅地として発展するようになった。さらに仁川町につづいて大正15年には一里山に住宅が造成され、寮などが建てられた。

第二次大戦後、神戸にあった報徳学園が一里山の南側に残っていた川西航空機の倉庫を買取って移転し校舎を新築した。この頃から一里山にも次第に住宅が新築されるようになった。

また戦後には次第に中央の平地部も開発がすすんで来た。その最初の契機となったのは昭和30年頃、阪急が段上町一丁目の約500坪を造成して約50戸を建築して分譲したことである。その後、段上5丁目に県が70戸を建設した。これにつづいて段上6丁目、7丁目、8丁目、さらに上大市5丁目、4丁目にも建設された。

このような住宅地化を反映して学童が増加した

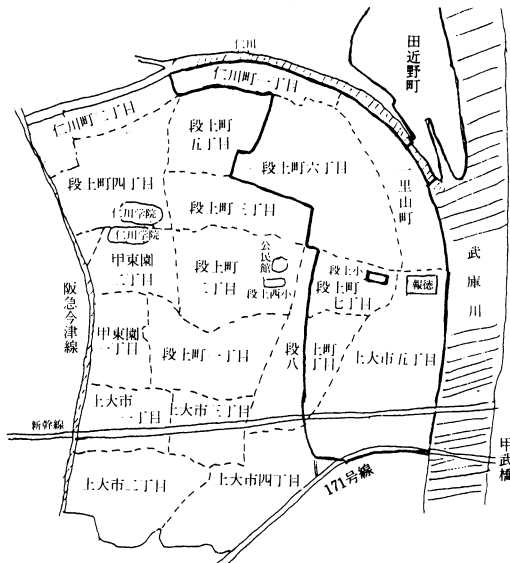


図1 段上地区略図

ため小学校も増設された。初めは甲東小学校だけであったが、上ヶ原、樋の口にも開設され、さらに昭和40年4月、段上小学校も開設された。

当時は仁川の堤防から西国街道まで一望のもとに眺望のきく田園地帯であったが、その後、急激に宅地化がすすみ人口が急増した。そこで昭和52年には段上西小学校が開校し、段上地区は二つの学校区に区分された。

段上地区は昭和50年以降、ますます住宅地化が進行している。

〔1〕 児童と遊び

すべての人間にとって遊びがきわめて重要な意義を持っていることは言うまでもないことである。しかし、大人にとつての遊びと児童にとつての遊びは必ずしも同じ意味を持つものではない。

(1) C. H. クーリーの第一次集団論

幼年期における仲間との遊びの体験が人格形成とその人の生涯にとって、きわめて重要な意味をもつものであることを説いたのはC. H. クーリーである。クーリーはプライマリー・グループ(第1次集団)の概念を創ったが、これは対面的、一次的接触によって維持される小集団であり、遊び仲間、近隣、家族を意味している。彼がこの集団にプライマリーという名称を付与したのはそれが個人の社会性と理想を形成していく上で基本的であるという意味においてであった。

第一次集団の特徴は、1) 直接接触による親密な結合、2) メンバーの間にみられる連帯感と一体感、3) 成長後も持続する幼年期の道徳意識が形成される社会的原型、4) 社会関係を強化し安定させることである¹⁾。

藤本浩之輔によると、大人にとつての遊びは仕事から解放された時間を、1) 気晴し、2) 休養、3) 娯楽を楽しむことであるのに対して、児童にとつての遊びは単なる知識の習得とは違った意味での「学習」の要素をもっており、そこでは、1) 運動能力や体力の養成、2) 知的・精神的発達がなされる²⁾。

1) Cooley, C. H., Social Organization, 1909. pp. 23-31. 大橋幸・菊池美代志訳『社会組織論』青木書店。なおマッケイ (H. H. McKay), クイン (J. A. Quinn), ホーリー (A. H. Hawley) も子供と近隣の関係を重視した。
 2) 藤本浩之輔『子供の遊び空間』日本放送協会, 昭和49年, 11頁。

そこで子供は遊びの過程で何を学ぶかといえ、まず第一に「社会的能力」の会得がなされる。子供は仲間と一緒に遊ぶことを通して、人とのつき合い方を学び、その中でリーダーとフォロワーの存在を知り、グループの中で生まれる対立葛藤をどのように解決するかについても学んでいく。また「社会的ルール」を知り個人の役割や責任のとり方を学習する。さらにこれらのことを通じて、「自立性」、独立性を学習する。このことによって子供は社会性を修得し成長していく³⁾。

次に社会的経験の拡充とその充実がなされていく。すなわち仲間と一緒に近隣を徘徊しながら、無意識のうちに世の中というものを実感的に理解し経験して社会の成立や仕組み、人間の生き方を学んでいく⁴⁾。

第三に、単なる知識の習得ではない知的発達、すなわち想像力、工夫する力および創造力は子供の遊びにおいてこそ最もよく発現するものと思われる。子供は自由な遊びの中で創造力を発展させる⁵⁾。

第四に、運動能力の発達と体力の養成。自由で楽しい遊びの中で手足の器用さ、運動感覚をつちかひ、体力をつけていく⁶⁾。

(2) C. A. ベリーの近隣住区と児童の遊び場

都市化の過程にあって大きく変化する地域のなかで、児童の遊び場をいかに確保するかという課題を追及し、近隣住区計画を創り出したのはC. A. ベリーであった⁷⁾。

彼は1920年代のニューヨーク大都市圏において小学校の児童の遊びを研究し、これを住区の設計に生かし、いわゆる「近隣住区」を創出した。この設計方法はイギリスのニュータウンに取入れられてその基本的構成要素となり、さらに日本の千

里ニュータウンにも採用され、ニュータウン造りの構成単位をなしている。

彼の構想のねらいは六つあると考えられる。

その第1は、自動車時代に対応して児童を自動車事故から守り、通過交通の脅威から居住環境を守るため、住区構造を工夫することによって自衛措置を講ずること⁸⁾。

第2は匿名性と流動性によって特徴づけられる現代大都市の社会問題を解決するため、より小さな住区の単位に分割し、その中で人間の直接接触を高め、ことに連帯感、すなわちコミュニティを創り出すこと⁹⁾。

第3は、小学校を校区の中心におき、学校の範囲でコミュニティを構成し、町づくりを児童中心に考える¹⁰⁾。

第4はオープンスペースを十分にとり、地区内のゾーンと建造物の規制によって快適で閑静な生活環境をつくり出すこと¹¹⁾。

第5は、住区の中央に魅力的なコミュニティ・センターをつくり、そこに小学校、図書館、音楽室、集会所など公共施設を配置し、住民生活の求心的な構造化をはかる¹²⁾。

第6に、求心的に構造化されたセンターの公共施設を利用することによって住民相互の交流をはかり、地域住民組織を形成して住民の親睦を深めるため、コミュニティの催しを実施することによって、コミュニティ意識を培い社会的統合をもたらすことにあった¹³⁾。

このようなねらいを実現するために創られたベリーの「近隣住区計画」は六つの原則から成っている¹⁴⁾。

まず第1に規模は一つの小学校区の人口とし、広さは人口密度に依存する。日本では約1万人を

3) 藤本浩之輔 同上書 12—13頁。

4) 同上書 16—17頁。

5) 同上書 13頁。

6) 同上書 14—15頁。

7) C. A. ベリー・倉田和四生訳『近隣住区論』鹿島出版会 昭和50年。

8) 同上書 8頁 18—23頁。

9) 同上書 199—202頁 181—192頁。

10) 同上書 43—72頁 91—98頁。

11) 同上書 91—98頁。

12) 同上書 91—98頁。

13) 同上書 27—28頁。

14) 同上書 124—140頁。

標準とする。

第2に、住区の境界を明確にする。まず住区の住民を交通事故から守るため、住区内に通過交通を許さないようにすることが肝要であるが、その為には外周の通過交通をスムーズに流す必要がある。そこで外周に幹線道路を配置し、これを住区の境界とする。

また明確な境界を設けることによって、住民が自分のコミュニティに対して一体感を抱き易いようにする。

第3に、この住区計画のねらいの一つは住宅の近くにレクリエーションの為の広場や十分な施設を配置することにある。住区には約1割のオープンスペースを設けることが望ましい。

第4に、小学校その他の公共施設の用地を中心部または公共広場に適切にまとめること。近隣住区には図書室、美術室、音楽室、レクリエーションや集会所などのコミュニティ施設が必要であるが、これを小学校のそばに配置すれば、児童と大人がともに利用することが出来るし、施設の管理に住民が積極的に参加することによって住民の接触と交流をはかることができる。

第5に、ショッピング地区を住区の周辺の交通の便の良いところに設ける。その理由としてまずあげられることは、住区内で商店の営業がなされると住宅地の静かな環境が損なわれる恐れがある。また商品を運ぶトラックによって、静かでなければならない住区に騒音をもたらし、さらにその為の交通を発生させることが子供達の脅威になる。逆に店舗は商品の仕入や発送など幹線道路に近接している方が便利であるから、商店街が住区の周囲にあることは店舗の営業活動にとっても有利である。

第6に、住区内の街路網は住区内の交通を容易にする一方、通過交通に使われないよう設計する。そこで住区内の街路はまず第1に歩行者の目的にかなうように工夫すべきである。

上記の通りペリーの近隣住区計画に示されているように、「コミュニティ」は児童中心に考えられ、子供の遊び場の確保がまず第一に考えられる

べきである。

(3) 都市化と児童の遊び場

国連の「児童の権利宣言」や日本の「児童憲章」では児童は遊びの場所を保証されると述べられているが、この理念にもかかわらず、現実には子供達の遊び場の確保はきわめて困難な課題である。

子供達の遊び場を奪う主な要因は急激な都市化とモータリゼーションである。まず都市化にともなって無計画に宅地化がすすみ、そのため都市の中から自然が失なわれ、空地や原野がつぶされてしまった。山野を駆けめぐって遊んでいた子供は狭い人工の公園にとじこめられてしまう。

またモータリゼーションは生活道路まで車道化し、歩行さえ危険にさらすことになった。本来、生活道路は子供にとっての最良の遊び場であったから、遊び場はどこにでも存在していた。しかしモータリゼーションの進行によって、幹線道路だけでなく生活道路にまで車が侵入し、人間、ことに子供に危険をもたらしている¹⁵⁾。ある調査によれば子供の遊びを阻害するものとして、交通が危険という答えが1位で、公園や広場がないが2位となっている¹⁶⁾。

(4) 児童の遊び場の復権

先に指摘したように、児童にとっての「遊び」は成長発達にとって必須の要件である。しかし都市化、住宅地化に伴って遊び場は次第に圧迫され、モータリゼーションによって危機に傾いている。われわれ大人はこのような児童の遊び場の現実を正しく認識し、これに対する適切な対応を速やかに為すべきである。

地区の公園や広場などの設置は地方自治体や開発業者の任務とされているが、同時に一般市民も地区の開発の状態に関心を寄せ、児童の遊び場を確保するために意見を表明し、その実現のために具体的な行動をとる必要がある。

[2] コミュニティの社会構造

段上地区は第2次大戦後、40年代の後半から急激に住宅地化の進行した地区である。PTAのア

15) 藤本浩之輔 同上書 昭和49年 61—80頁。

16) 同上書 19—20頁。

ンケート¹⁷⁾を用いてこの地域の特性についてみてみよう。

(1) 来住時期と住宅の形態

1) 来住時期

昭和50～54年の間に来住した人が53.5%で、55年から57年までの人が20.2%、45年から49年までの人が18.6%である。したがってこの地区は昭和30年代までに存在したわずかな住宅に加えて、40年代後半から急激に住宅地化した地区である。

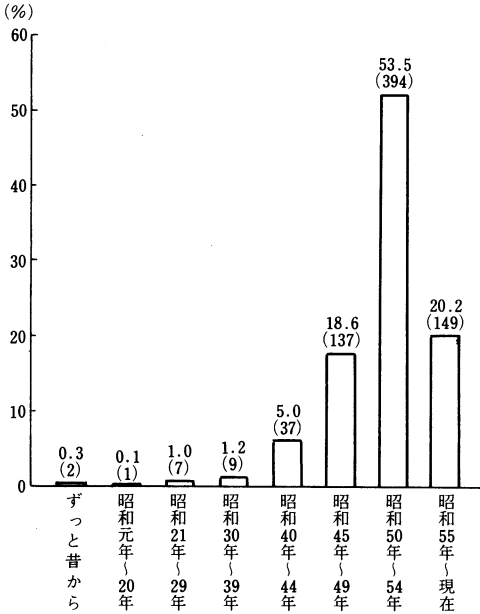


図2 来住時期

2) 住宅の形態

住まいの形態についてみると、鉄筋アパート・マンションが55.9%で最も多く、次に一戸建が33.8%、木造の文化アパートは3.9%ときわめて少ない(図3)。

すなわちこの地区は鉄筋のマンションと一戸建の混在する中クラスの住宅地である。

3) 住宅の所有関係

住宅の所有関係についてみると、持家が55.6%で最も多く、次は社宅などの給与住宅24.8%、公営借家は14.9%で民間借家は3.6%にすぎない。

したがってこの地区は給与住宅の多いのが特徴といえよう(図4)。

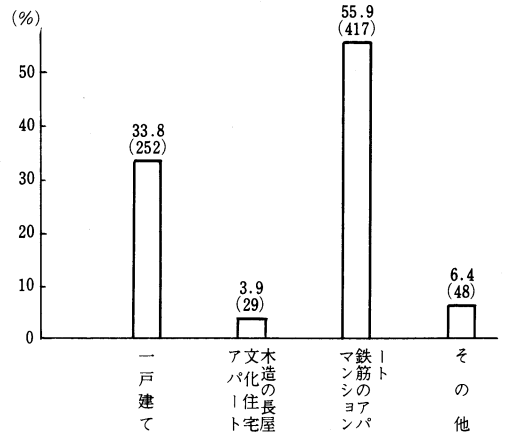


図3 住宅の形態

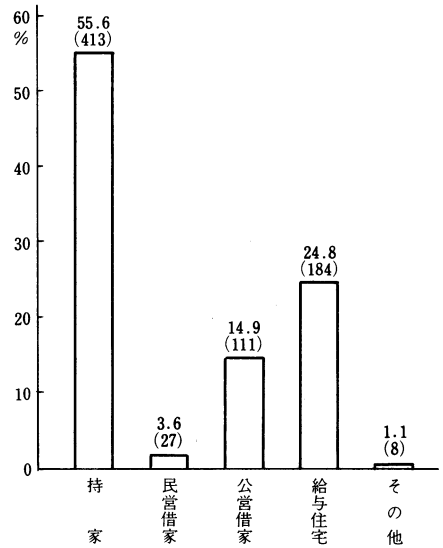


図4 住宅の所有関係

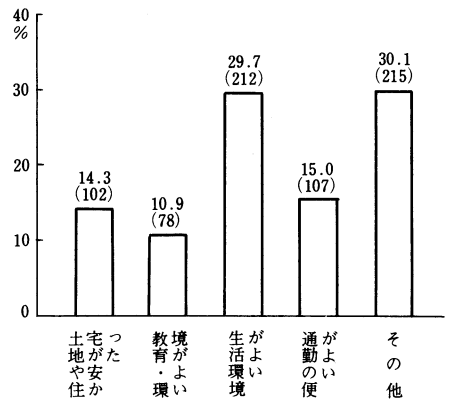


図5 段上地区に来住した理由

17) 昭和58年、段上小学校のPTAのメンバーを対象に近隣生活についてアンケート調査を行ったもの。

4) 来住の理由

来住の理由についてみると、「生活環境がよい」をあげているものが最も多く、29.7%、次は「通勤の便」が15.0%、第3位は「土地や住宅が安かった」が14.3%で、「教育・文化環境がよいから」が10.9%である(図5)。

したがって住民も生活環境がよいという点を高く評価して来住していることがわかる。

(2) コミュニティの社会構造

1) 段上小学校区の位置

段上小学校区は西宮市の甲東地区(旧甲東村)の中にある段上地区の一部である。段上地区は昭和52年3月まで段上小学校の1校区であったが、地区内の住宅地化にともなう児童数の増加によって昭和52年4月、段上西小学校が開校し、二つの小学校区に分割された。

段上小学校区は田近野、一里山、仁川町1丁目、段上町6丁目と百間樋川以東の段上8丁目、上大字5丁目から成っている(図1参照)。

2) 主な地域住民組織

この地区の主な地域住民組織としては、①自治会、②PTA、③子供会、④体育振興会、⑤青少年愛護協会、⑥婦人会、⑦老人会、⑧社会福祉協議会がある。

これらの組織のなかで地域で最も役立っているものをあげると、自治会、体育振興会、PTAの順である。しかし他の地区では、自治会の地位が圧

倒的であるに対して、ここでは二位、三位との差がそれほど大きくない。したがって、二位の体育振興会、三位のPTAが、相対的に、重要な位置を占めていることが知られる。

3) 地域住民組織への加入

これらの住民組織に住民がどの程度加入しているかについてみると、第一位はPTAで65.9%、次が自治会の60.0%、第3位が子供会の37.8%、第4位が体育振興会の22.4%、さらに青少年愛護協会、婦人会、老人会、社会福祉協議会の順であった。

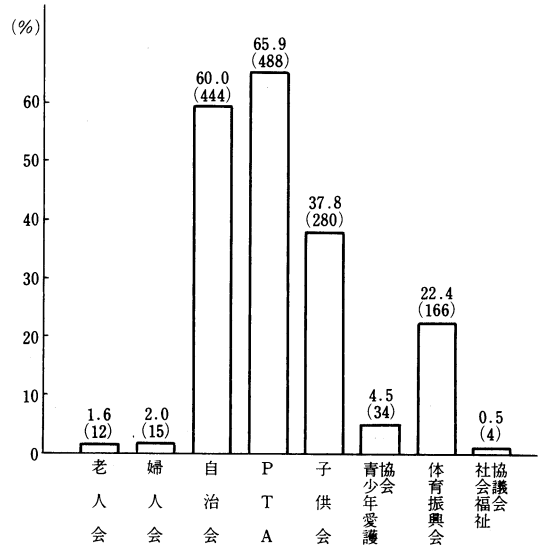


図7 団体加入状況

まずPTAが第1位を占めているのがこの地区の特徴であろう。これは勿論、回答者がPTAの会員であることによるが、PTA会員で自治会に加入していない人がいることがわかる。一般には自治会の加入率が圧倒的に高いはずであるが、ここではPTAにつき、第2位(60%)である。さらに婦人会や社会福祉協議会への加入が少ないのが目立っている。

先の最も役立っている組織と併せ考えると、この地区では自治会の役割が相対的にみて小さく、逆にPTA、体育振興会の役割が重要である。このように子供に直接関連する住民組織が住区で重要な地位を占めていることが、この地区の子供の愛育活動が積極的に展開される理由であろう。

4) 住民組織の構造と機能

段上小学校区の主な地域住民組織は、①自治

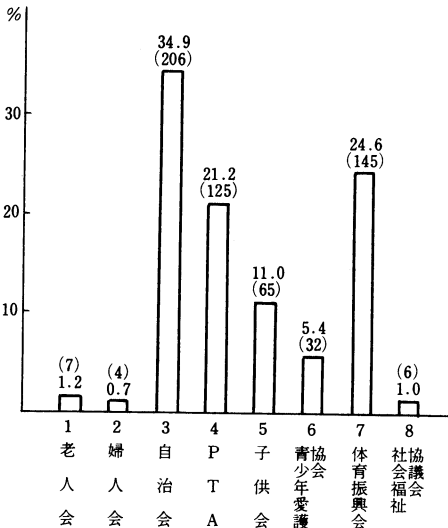


図6 最も役立っている地域住民組織

会、②子供会、③PTA、④体育振興会、⑤青少年愛護協会の五つである。

そのうち自治会と子供会は伝統的、基礎的な親睦と自治の組織であるのに対して、PTA、体育振興会、青少年愛護協会は特定の機能を担う組織であり、行政の指導のもとに創られた行政協力的組織である。

伝統のある地域社会においては、普通、自治会が基礎的な集団として強力な基盤をもっており、機能的組織はその影響下にあり、ところによっては自治会の傘下に統合されている。

しかし、この段上小学校区は30年代まではほとんどが田園であったところに昭和40年代の後半から急速に住宅地化していった新興の住宅地であるところから、この地区では自治会も村落時代からの伝統的で強力な基礎をもたず、40年以降に出来た行政連絡と親睦を中心に運営されている。

これに対して小学校のPTA、体育振興会、青少年愛護協会といった行政協力組織はよく組織され活発に活動している。

自治会があまり活動的でないのに対して、むしろ機能的組織の方が強力に組織され活発に活動しているのがこの地区の特徴といえよう。

1. 自治会

ここは新興住宅地であるため強固なムラの伝統がなく、新らしく主にサラリーマンを中心に組織されたものであるために、自治会は基礎的な組織として十分な活動力を備えたものではなく、行政連絡と親睦を目的とした組織である。

地区内の自治会に共通する機能としては、①生活環境の保持（例えばゴミステーションの清掃、防犯灯の管理）、②生活環境の防衛機能（例えばワンルームマンション建設工事者との話し合い）、③行政協力——行政からの情報の伝達、県民アンケート、募金、「宮ッ子」の配付、④地区内の親睦（おくやみ）などである。

自治会としては行政連絡、親睦などミニマムの活動にとどめ、それ以外の活動はあまり行っていない。

しかしこの地区で、例外的に活発な活動を展開している上大市2丁目自治会についてみてみよ

う。

この自治会は加入世帯も1100世帯と大きく、学区も甲東小、段上小、段上西小の三学区にまたがっている。この自治会は先にあげた普通の活動の外に集会所（市の公園の一部の土地を借り、コンドミニウムの建設業者に電波障害などの補償として建設してもらった）を拠点に活発な活動を行っている。その主なものをあげると、

① 年1回の日帰りバス旅行。昨年は120人参加したのでバス3台で秋の比良山に登った。

② 集会所で教養・保健講座を開く。

③ 園芸講座（年1～2回）

④ カラオケ同好会がカラオケを歌う。

⑤ 子供会の七夕祭り、ひな祭りを財政的・技術的に支援する。

このように自治会は専用の集会所を十分に活用して活発な活動を展開している。

2. 体育振興会

体育振興会は西宮市が「スポーツ活動を通じて地区住民の親睦をはかり、健全で明るい家庭生活と社会生活を営む」ことを目的に昭和20年代に設立したもので、段上地区においては昭和42年に発足した行政指導による組織である。段上小学校を拠点として活動しており、恒常的な活動としては、土曜と日曜にスポーツを楽しみ、その外に甲山登山も実施している。

昨年の主な活動としては、①地区運動会、②春の球技大会、③移動スポーツ教室、④日曜スポーツ・クラブ・キャンプ、⑤水泳教室・親子教室、⑥パパさんバレー、⑦秋の球技大会、⑧ママさんソフトボール大会、⑨球技大会、⑩親子バドミントン教室、⑪甲山ハイキング、⑫日曜スポーツ・クラブお別れ会、など。

以上のようにこの組織は活発な活動を展開している。

3. 青少年愛護協会

この組織も市の行政指導によって形成されたもので、段上地区においては昭和42年に発足した。その目的は「青少年の健全な育成のため各種団体が相互の連絡と協調をはかり、地域ぐるみの愛護活動をする事」¹⁸⁾である。すなわち、この組織は

18) 段上青少年愛護協会会則（昭和44年5月）第3条。

地区内の主な住民組織を網羅する協議会であるので、地域全般を連絡統合する機能を果している。

主な活動としては、①定期連絡会、②図書貸出に協力、③地区パトロール、④あいさつ運動（11回）、⑤清掃キャンペーン、⑥通学路点検、⑦盆おどり大会、⑧段上地区青少年健全育成大会、⑨宝塚まつりパトロール、⑩自転車教室、⑪年末補導、⑫各種会議・研修参加など活発に活動している。

この組織は地区内と各種団体を網羅しているので地域の連絡統合の役割を果たしている。

4. 小学校PTA

PTAの目的は「学校と家庭が力を合わせて民主教育を推進し児童の健全な発達と福祉の増進並びに、会員の資質の向上につとめ、あわせて社会教育の振興に協力すること」である¹⁹⁾。

活動は6部に分かれてなされている。①学級PTAは父母と教員の話合い、②愛護部では通学路・遊び場のパトロール、③広報部は広報紙の発行、⑤保健部は保健体育に関する種々の行事、⑥購売係は販売の手伝い、などをおこなっている。

PTAは会員数も多く、よく組織されているので最も活動力のある組織である。

5) 各種組織の機能連関

次にこれらの各種組織の関連をみてみよう。地域社会の基礎的な組織としての自治会は子供

会と老人会を支援している。また機能的な組織としての体育振興会と青少年愛護会にも地元協力金を支出している。

他方、行政指導によって作られた体育振興会と青少年愛護協会は自治会からの協力金の他、行政からの助成金を受けている。さらにこれら児童の学習育成に関する三つの組織は役員構成や活動において密接に関連している。

<p>A</p> <p>自治会 (環境適応) { 生活環境保持</p>	<p>G</p> <p>甲東社会福祉協議会 (目標達成) { 陳情 請願 反対運動</p>
<p>体育振興会 P T A (学習・リクリエーション) L</p>	<p>青少年愛護協議会 (統合) { 連絡調整 健全育成 I</p>

図9 主要な組織の機能

次に地域におけるこれらの組織が果す機能について次のように整理することが出来る。

自治会は生活環境を良好に保持するため努力している。地区の目標（政治）達成行動はより上位（広域）の甲東社会福祉協議会で行っている。レクリエーションは体育振興会、学習・教養活動はPTAでなされている。地域組織の連絡と統合は青少年愛護協会ではかられている。

すなわち、この地区においては四つの機能のうち目標達成（政治）の機能だけが、より広域の甲東地区の社会福祉協議会で担われている。

〔3〕 児童の生活構造と遊び

児童の遊びについての検討をすすめるため、まず最初に児童の平均的な生活時間を探り出し、それがどのような構造になっているかを明らかにしてみよう。まず調査対象の児童の性別・学年・住所についてみておこう。

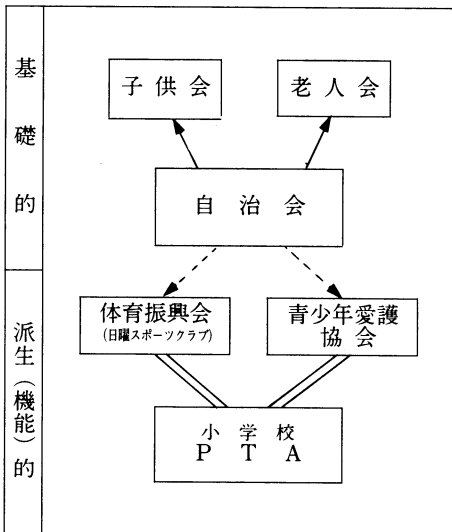


図8 各種組織の機能連関

19) 西宮市立段上小学校PTA会則。

(1) 対象児童の性別・学年・住所

調査対象の児童の性別をみると男子51.2%，女子48.7%である。

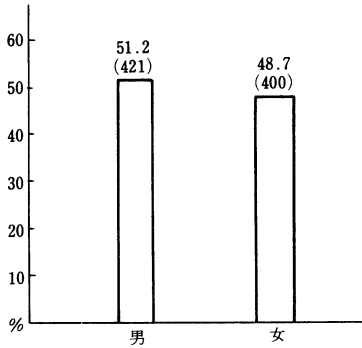


図10 性別

学年別の人数は6年生185人(22.5%)，5年生193人(23.5%)，4年生233人(28.3%)，3年生は211人(25.7%)で合計822人である。

地区別にみると，段上町29.7%，一里山19.1%，仁川町6.3%，田近町21.7%，上大市が22.6%である。

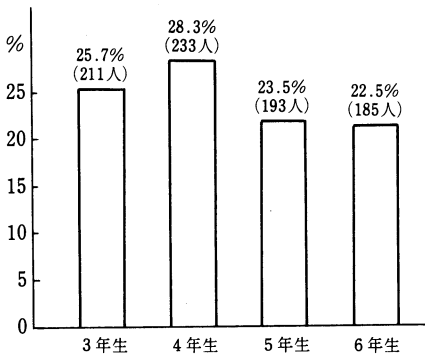


図11 学年

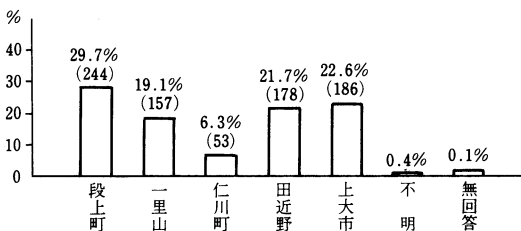


図12 住所

(2) 児童の生活構造

児童の生活時間は大きく分けると，①学校，②家庭学習，③学習塾通い，④その他の習い事，⑤屋外の遊び，等があげられるであろう。

その中で学校における学習は児童にとって最も重要であり，児童の生活の中心をなすものである。普通，月曜から土曜日まで，毎日続けられており，一定している。

また家庭学習もそれぞれの事情に応じて定まっているであろう。

第3の学習塾通いは学歴社会の現実が持続するなかで益々一般化する傾向にある。

第4のその他の習い事も大きな変化はあるまい。

そこで「塾通い」の時間が増加する分だけ第5の「屋外の遊び」が圧縮されることになるものと思われる。

ここで児童の生活のうちで，①「遊び」，②「塾通い」，③「その他の習い事」がどのようになされているかについて考察してみよう。

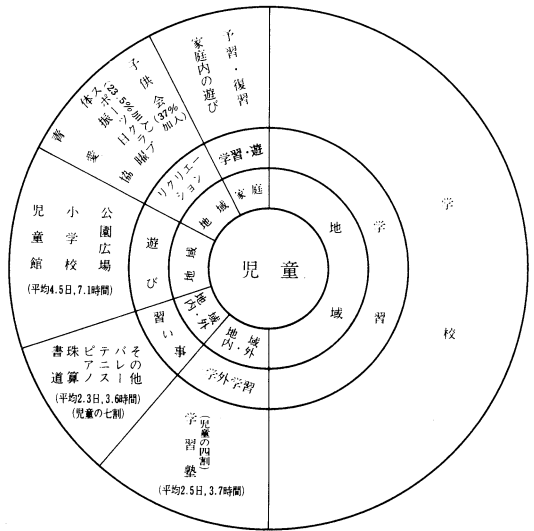


図13 児童の生活時間

(3) 児童の遊び，学習塾，その他の習い事
生活時間のなかで児童はどの位屋外で遊んでいるかについてみてみよう。

1) 遊ぶ日数

一週間に何日屋外で遊ぶかについてみてみると，毎日が19.6%と最も高く，2位は3日，3位

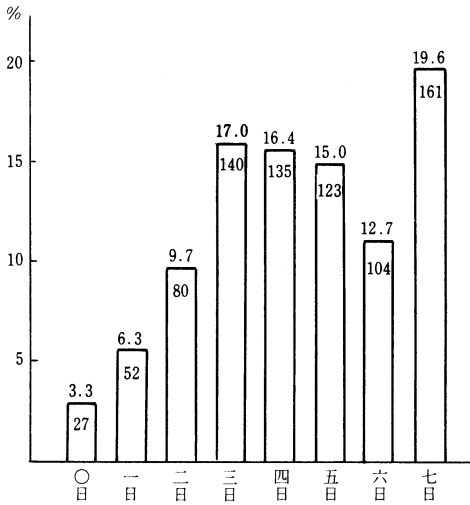


図14 週に何日屋外で遊ぶか

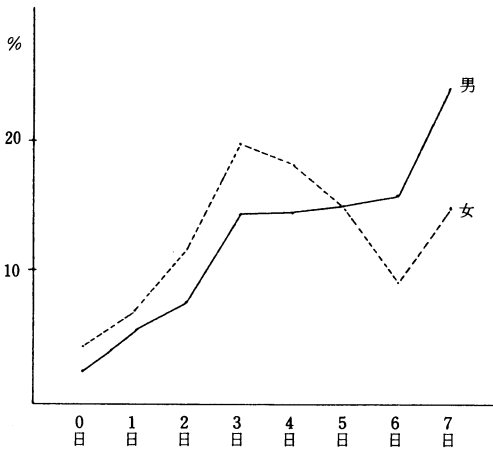


図15 性別と屋外で遊ぶ日数(一週間)

が4日、4位が5日である。3日以上遊ぶ人が8割をこえている。平均は4.5日である。したがってかなりよく遊んでいるといえよう。

1) ① 遊ぶ日数と性別

遊ぶ日数と性別の関係を見ると、屋外で遊ぶ日数は4日までは女子が多いが、5日以上になると男子が多くなる。

一週間に遊ぶ日数の平均は男4.7日、女子4.1日で、男子がやや多い。

1) ② 遊ぶ日数と学年

遊ぶ日数と学年の関係を見ると、3年生、4年生、5年生と比べ、6年生は全く異なったパターンを示している。これは6年生になると中学入試

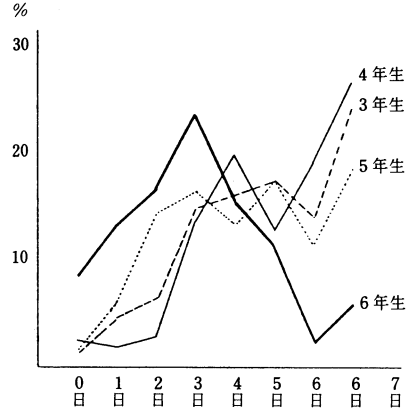


図16 学年と週に屋外で遊ぶ日数

をひかえて受験勉強の時間が増加し、遊べる時間が少なくなるためである。そこで週3日までが多く、4日以上遊ぶ児童は少ない。

遊びの平均日数をもてみると、3年生は5.1日、4年生は4.8日、5年生は4.3日、6年生は3.3日とすくない。

1) ③ 屋外で遊ぶ日数と居住地区

屋外で遊ぶ日数を居住地区別にみると、「段上町」と「上大市」が4.5日、「一里山」と「田近野」は4.4日、「仁川町」は4.1日で最も少ない。また

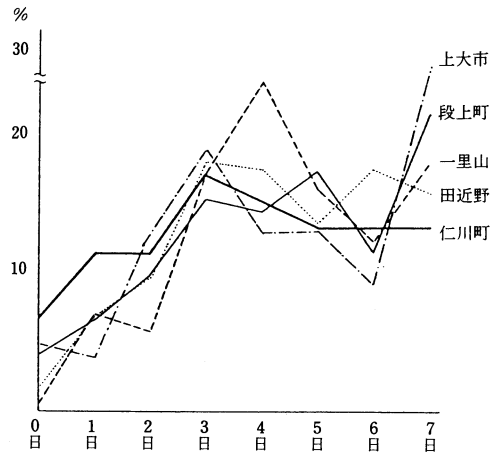


図17 住所と屋外で遊ぶ日数(週)の関係

「段上町」は毎日が最も多く、5日がこれについている。「一里山」は4日が最高で、毎日がこれについている。「田近野」は3日と6日が多い。また「上大市」は毎日と3日が多くなっている。

2) 遊ぶ時間数

遊ぶ時間数についてみると、10時間以上が32.7%と最も多く、次いで5時間～10時間未満が20.7%、第3位が、1時間～3時間未満の18.9%となっている。遊ぶ時間は平均すると、週に7.1時間になる。

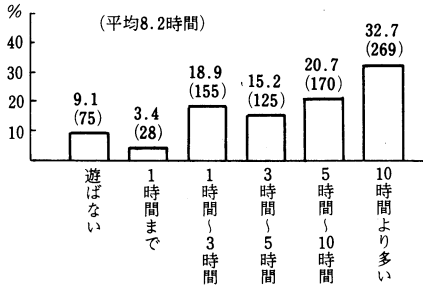


図18 屋外で遊ぶ時間 (1週間)

2) —① 遊ぶ時間と性別

遊ぶ時間数を性別にみると、10時間未満では女性が多いが、10時間以上になると男子が格段に多くなっている。やはり男子の方が長時間遊んでいる。

平均の遊ぶ時間を見ると、男子7.7時間、女子6.7時間となる。

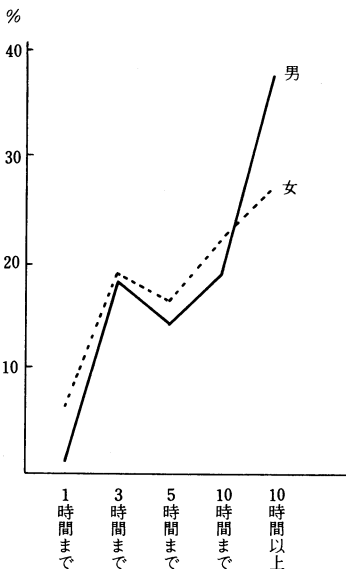


図19 性別と屋外で遊ぶ時間数

2) —② 遊ぶ時間数と学年

学年別にみると、4年と5年生の遊ぶ時間が長

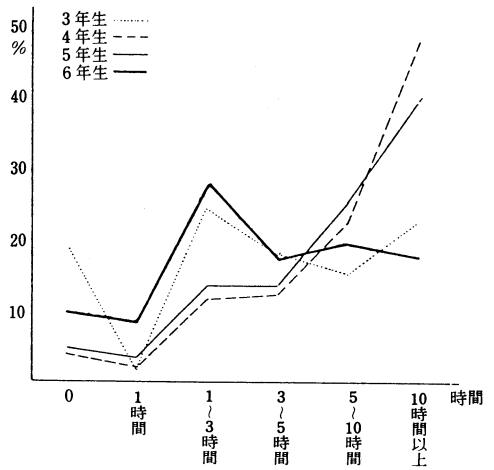


図20 学年と屋外での遊び時間

く、3年と6年生の時間が少ない。6年生は入学試験のために勉強する必要に迫られているためであろう。

平均時間数を見ると、3年が6.3時間、4年8.6時間、5年8.0時間、6年になると5.5時間と短い。

2) —③ 遊ぶ時間と居住地区

遊ぶ時間は10時間以上が最も多く、次が1時間～3時間で、5時間～10時間が3位である。

地区別の平均時間を見ると、仁川町と一里山は

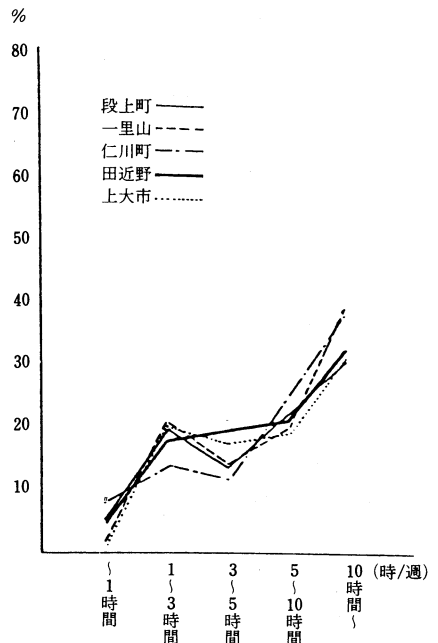


図21 住所と屋外で遊ぶ時間

7.7時間、段上町、田近町、上大市は7.1時間で大きな差はみられない。

3) 学習塾への通学日数

段上小学の児童で学習塾に通っている人は約40%である。週に2日が最も多く32.6%、次が3日で26.2%、第3位が1日で21.3%である。通っている人の中で平均すると週に2.5日塾に通っている。

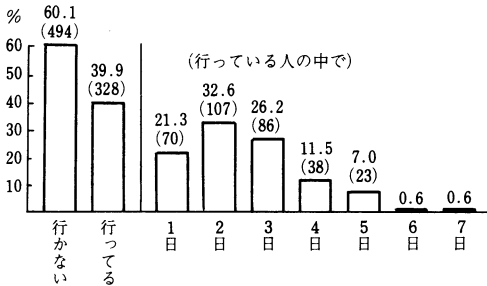


図22 学習塾への通学日数

3) —① 学習塾への通学日数と性別

塾に通う日数を性別にみると、男子がやや多い。通っている児童の平均日数は全体で2.5日、性別にみると男子で週2.7日、女子で2.4日となっている。男子は週3日と2日が最も多いのに対して、女子は2日が最も多い。

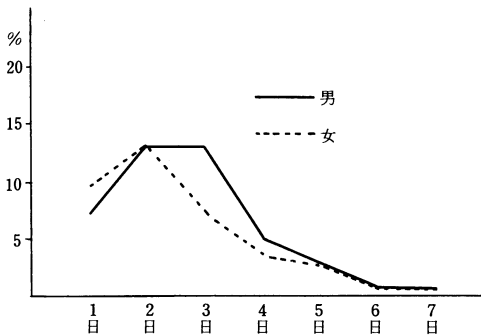


図23 塾に通う日数と性別

3) —② 塾に通う日数と学年

塾に通う日数と学年の関係を見ると、高学年の5～6年が多く、低学年の3年生、4年生では少ない。

平均日数(通っている人のみ)についてみると、6年生は1週に2.9日、5年生は2.7日、4年生は2.4日である。

6年生では週に3日が最も多く、5年生は2日

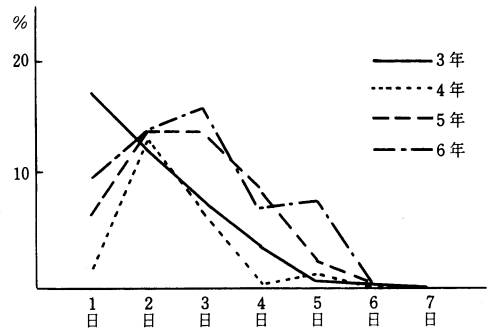


図24 塾に通う日数と学年

と3日が多い。

3) —③ 塾に通う日数と居住地区

居住地区別に塾に通う平均日数(塾に通っている人のみ)をみると、仁川町は週に2.8日、田近野は2.6日、段上町と上大市が2.5日、一里山が2.4日となっている。仁川町がやや多いことが知られる。また段上町は週2日が多く、仁川町は週3日が多い。

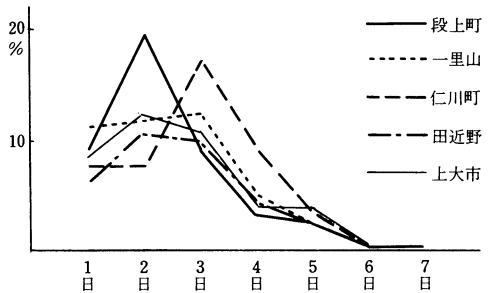


図25 塾の日数と居住地区

4) 学習塾への通学時間

学習塾への通学時間(通っている人のみ)につ

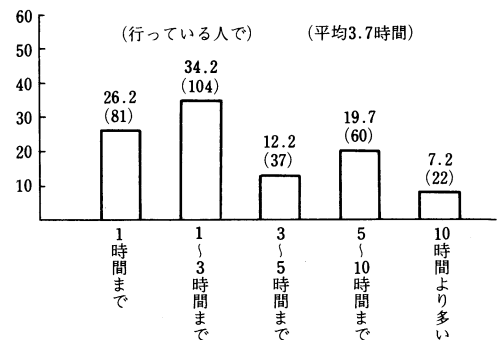


図26 学習塾への通学時間

いてみると、1～3時間が最も多く34.2%、次が1時間以内で26.2%、第3位が5時間～10時間の19.7%となっている。平均時間は約3.7時間である。

4) —① 学習塾へ通う時間数と性別

時間数を性別にみると男子の方が女子よりもやや多い。平均でみると男子4.3時間、女子3.1時間であった。

女子は1～3時間が最も多く、男子は1～3時間と5～10時間が多くなっている。

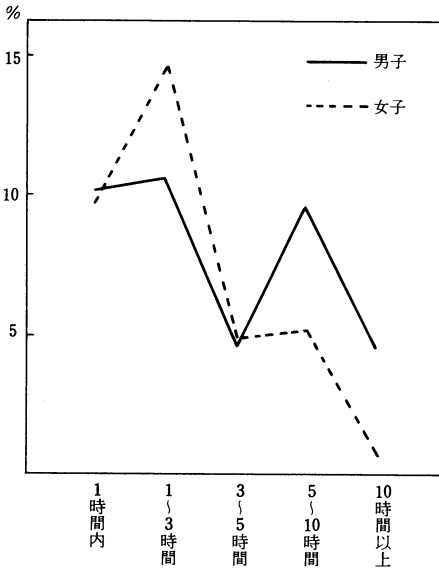


図27 塾に通う時間と性別

4) —② 塾に通う時間数と学年

塾に通う時間数を学年別にみると、6年生は平均4.9時間、5年生4.2時間、4年生3.8時間、3年生1.6時間となっている。

やはり5年生、6年生になると塾に通う時間が多くなる(図28)。

4) —③ 塾に通う時間と居住地区

塾に通う時間を地区別にみると、仁川町が特に多く5.6時間、次いで一里山が3.9時間、3位が段上町の3.6時間、4位が上大市と田近野で3.4時間となっている。仁川町だけが多く、他は大きな差はない(図29)。

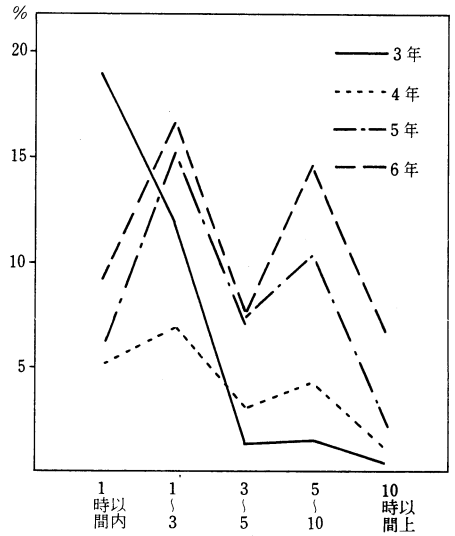


図28 塾の時間と学年

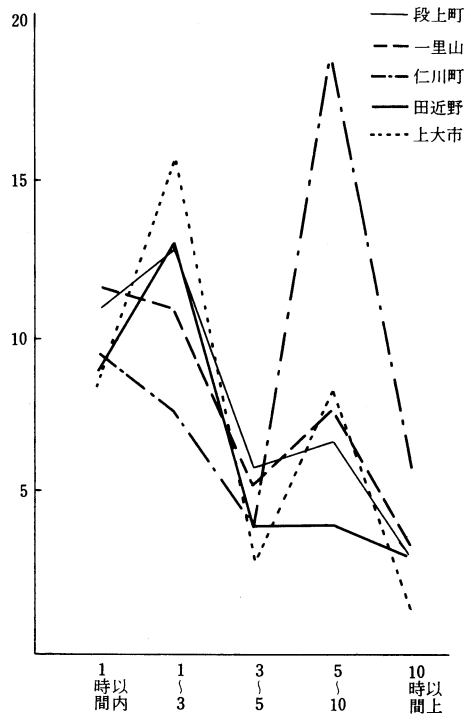


図29 学習塾に通う時間と局住地区

5) 塾以外の習いごとに通う日数

塾以外の習いごとに通う児童は7割である。通っている人の日数は週に1日が38.1%、2日が25%、3日の人も16.1%いる。平均で2.3日である(図30)。

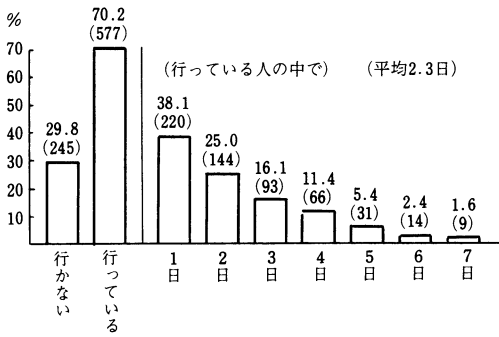


図30 習いごとに通う日数

5) —① 習い事と性別

通う日数を性別にみると、男子が平均2.5日で、女子は2.2日である。

5) —② 学年別

学年別にみると、4年生が2.8日で最も多く、次いで6年生が2.4日、5年生が2.2日、3年は2.0日である。

居住地区別には、上大市2.7日、一里山2.5日、段上町2.3日、仁川町と田近野は2.0日である。

5) —③ 習い事に通う時間

習いごとに通う時間は1～3時間が最も多く、35.8%次に3～5時間が21.9%、3位が1時間未満で19.7%である。平均は3.6時間となる。

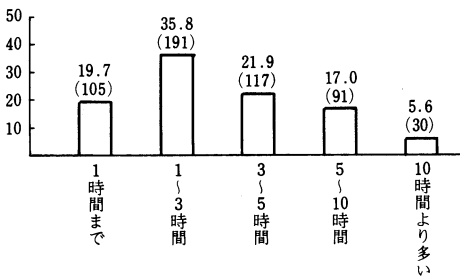


図31 習いごとに使う時間

性別にみると、男が平均4.4時間、女子が3.0時間で男子がやや長い。

学年別にみると4年生が4.2時間で最も長く、次いで5年生が4.0時間、第3位が6年生で3.5時間、3年生は2.9時間である。

居住地区別には、一里山が3.9時間、上大市が3.8時間、田近野は3.7時間、段上町が3.5時間、仁川町が3.2時間となっている。

(4) 要 約

① 児童は週平均4.5日遊んでいる。女子より

男子が多い。

- ② 低学年ほど遊ぶ日数が多く、高学年は少なくなる。ことに6年生は受験勉強のため遊ぶ日数が少なくなっている。
- ③ 時間数でみると週平均7.1時間遊んでいる。男子の方が女子より長い時間遊ぶ。
- ④ 4年生は週に平均8.6時間遊ぶのに対して、6年生は5.5時間しか遊べない。
- ⑤ 塾には4割の児童が通っており、週に平均2.5日通っている。男子が女子よりやや多い。
- ⑥ 6年生は週平均2.9日塾に通っている。
- ⑦ 平均3.7時間塾に通っている。男子が女子よりやや多い。6年生が4.9時間で最も長い。地区では仁川町の児童が長い。
- ⑧ 習い事に通うのは全体の7割と多く、週平均2.3日で、4年生が最も多く、上大市が最も多い。

以上のところから明らかのように、児童は塾、習い事、遊びと多様な活動をしているが、高学年になると学習塾や習い事に通うため、遊びの時間が大いに制約されていることがわかる。

(4) 遊ぶ場所と遊び仲間

段上小学校区は昭和50年代に急激な都市化がすすんだ地域である。かつて豊かに広がっていた田園には次々と住宅が建設され、農地や空地が次第に失われていく。しかもこの地区の最近の住宅地化は全体の地域計画を先行させることなく、スプロールの進んでいる。したがって公園・緑地なども十分には設けられていない。

アーバン・スプロールの進行する状況のなかで、児童たちはどのようにして遊んでいるのだろうか。地区内の遊び場と地区外の遊び場についてみてみよう。

(1) よく遊ぶ場所

この地区における子供の遊び場は「段上小学校」、「段上地区児童館」が圧倒的に多く、これについて「段上公園」、「上大市公園」、「蛙の公園」であることがわかる。

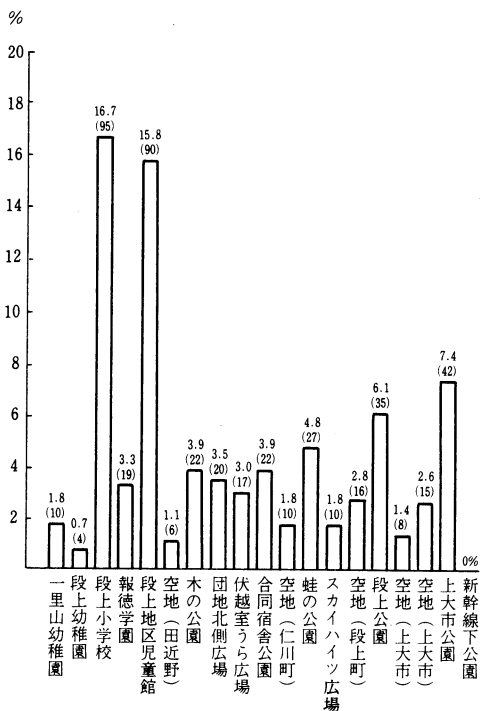


図32 段上地区の中で最もよく遊ぶところ

1) —① 遊び場と性別には大きな違いはない。

1) —② 遊び場と学年。

6年生は「小学校」「児童館」のほか「団地北側広場」が多く、5年生は「段上公園」が多い。4年生は「段上公園」と「上田市公園」が多い。3年生は「蛙の公園」が多い。やはり空地より公園

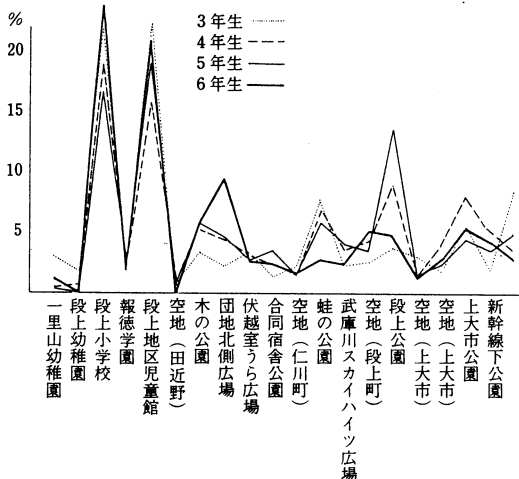


図33 段上地区の遊び場と学年の関係

でよく遊んでいる。

1) —③ 遊び場と居住地区

地区別にみると、〔段上町〕では「児童館」、「小学校」について「段上公園」が多く、〔一里山〕では「蛙の公園」、「スカイハイツ広場」、「段上公園・広場」を利用している。〔仁川町〕では、「蛙の公園」、「団地北側広場」が多い。〔田近野〕では最も多いのは地区内の「木の公園」で、これについて「小学校」、「児童館」である。〔上田市〕も「上田市公園・広場」が多く利用されている。したがって地区の中央の小学校と児童館の外はそれぞれの地区の公園・広場をよく利用していることがわかる。

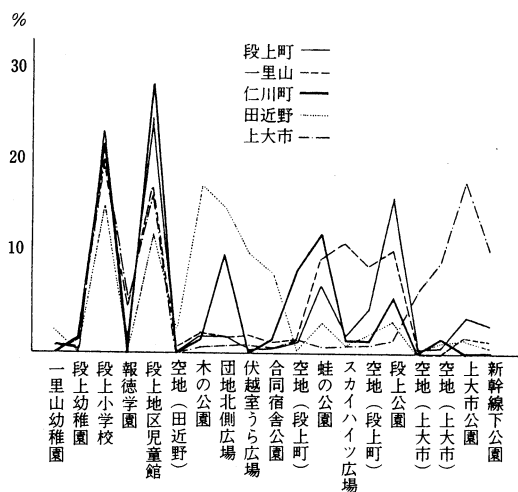


図34 子供の遊び場と居住地区

1) —④ 遊ぶ場所の数

遊ぶ場所は1カ所が最も多く、36.9%、2カ所が30.8%である。性別にはあまり違いがないが、学年別には3年は1カ所が多く、4・5・6年は2カ所以上が多い。地区別には「上田市」に2カ

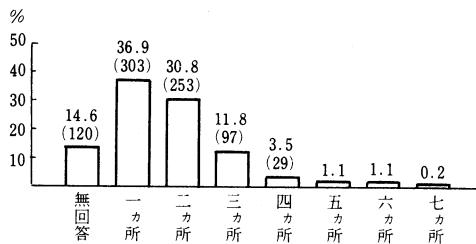


図35 遊び場の数 (総数822人)

所が多い。

1) —⑤ 段上地区外の遊び場

児童だけで段上地区外に遊びに行くのは47.2% (388人) である。行き先は「西宮市内」が61.6% で「宝塚市」が22.2%である。行くのは5年生、6年生が多く、女子より男子が多い。

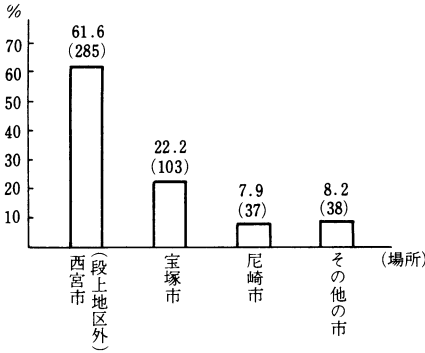


図36 地区外の遊び場

(2) 遊び仲間

児童にとって仲間との遊びは人格形成、ことに社会性の修得にとって必須欠くべからざる要件である。児童は仲間との遊び (相互作用) を通して自己とは異なった存在としての他人を知り、これを鏡として自己を知るようになる。またその経験を通して社会の規範を修得していく。

さて、そのように重要な遊びを始めるに当たって、どのように仲間選びをするのかについてみよう。

2) —① 遊び仲間の人数

遊び仲間の人数についてみると、3人~5人のグループで遊ぶのが最も多く、49.0%、次に2人

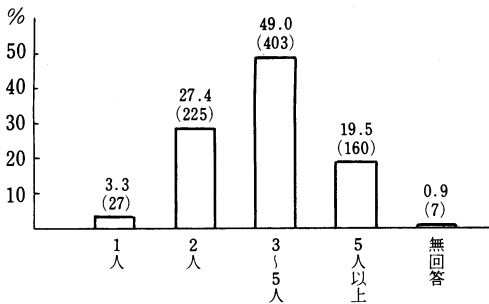


図37 遊び仲間の人数

が27.4%、3位の5人以上が19.5%で、1人は3.3%と少ない。これを他の資料と比較すると、段上地区の児童はグループで遊ぶ割合が多い¹⁾。

2) —② 遊び仲間の性別

やはり「同性だけ」が多く65.7%、次は「同性も異性も混る」が28.6%である。また5~6年についてみると同性だけで遊ぶ人が多く、70%をこえる。

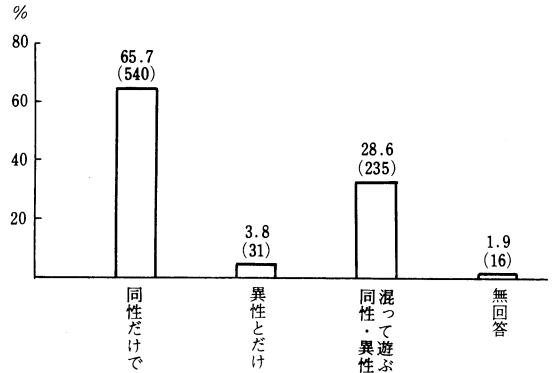


図38 同性と遊ぶか異性と遊ぶか

2) —③ 遊び仲間の年令層

遊び仲間の選択についてみると、「同級生」が最も多く38.3%、次が「すべてのグループ」で23.5%、3位が同級および下級生が15%である。

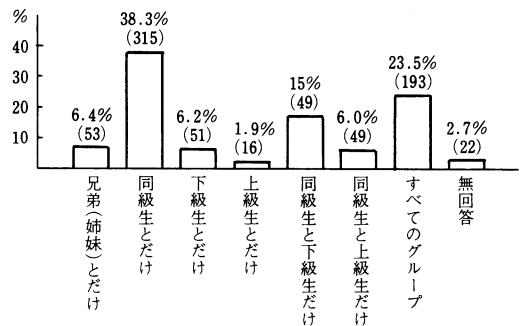


図39 おもに誰(同級生、下級生、上級生)と遊ぶか

2) —④ 性別

これを性別にみてもほとんど変わらない。

2) —⑤ 学年別

学年別にみると、6年生では「同級生だけ」が最も多く、「同級生と下級生」がこれについている。これに反して3年生では、すべての人と遊ぶ

1) 「都市と近隣」藤田弘夫、吉原直樹編『都市：社会学と人類学からの接近』ミネルヴァ書房、1987年、222頁。

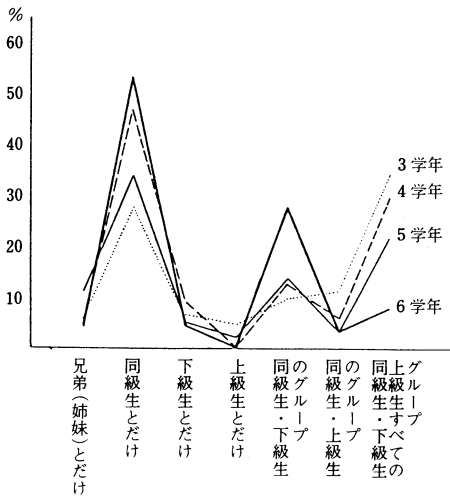


図40 学年と遊び仲間

のが1位で、2位が同級生だけになっている。4～5年では「同級生だけ」が1位で、「すべての人」が2位である。

(3) 要 約

① 地区の遊び場として「小学校」、「児童館」が最もよく利用され、すべての地区の児童に利用されている。小学校は遊びのセンターでもある。

② その他「上大市公園」、「段上公園」、「蛙の公園」、「木の公園」、「合同宿舍公園」など、それぞれの地区の児童がその地区の公園をよく利用している。

③ 遊び場は、1カ所か2カ所がほとんどである。

④ 地区外に47.2%の人が遊びに行くが、その61%は「西宮市内」である。

⑤ 遊び仲間は3～5人のグループが多く、同性だけ、また同級生だけで遊ぶものが多い。

[5] 遊び場についての要望

近年、無秩序なアーバン・スプロールが進行し、野原の遊び場がほとんどなくなり、公園や広場も少ない段上地区の児童はどこで遊び、遊びについて何を望んでいるのであろうか。

児童の遊び場に対する「満足度」、「欲しい遊具」、「欲しい遊び場の種類」、「欲しい施設」、「望ましい施設の設置場所」などについて検討してみよう。

(1) 遊び場に対する要望

1) 遊び場の充足度

遊び場は不足していると考えている児童が56.2%で、充分あると考える者は19.7%にすぎない。性別には、男子が不足を訴えている。学年別にみると不満が多いのは5年生と4年生である。

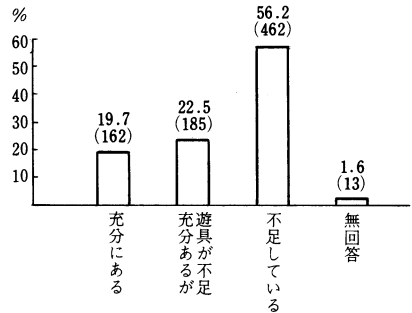


図41 段上地区に遊び場は充分あるか

2) 欲しい遊具

充分あるが遊具が不足と答えた人に、どんな遊具が欲しいかと質問すると「緑や花畑」が1位で20.4%、次に「ジャングルジム」で17.9%、3位は「ブランコ」の14.5%、4位は「鉄棒」の12.7%である。

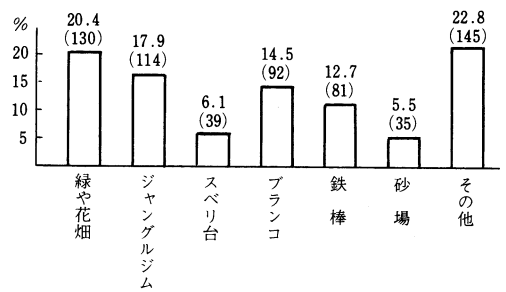


図42 どんな遊具がほしいか

2) —① 性別

これを性別にみると「花畑」と「鉄棒」は女子が多く、「ジャングルジム」、「スベリ台」、「砂場」は男子が多い。

2) —② 学年別

6年生は「花畑」と「鉄棒」を欲し、5年生は「ジャングルジム」と「ブランコ」、4年生は「花畑」、「ジャングルジム」、「ブランコ」、3年生は「ジャングルジム」と「ブランコ」を欲している。

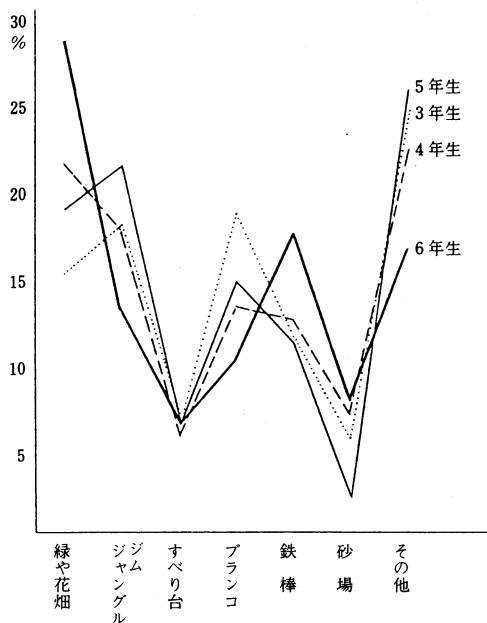


図43 どんないすを欲しいか (学生別)

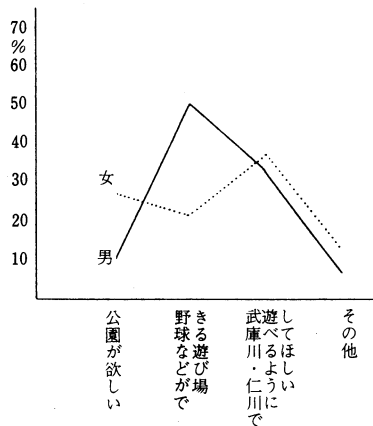


図45 性別と欲しい遊び場

3) —② 学年別

学年別にはあまり大きな違いはないが、6年生には「公園」が最も少なく、「武庫川の利用」を希望している者が多い。

3) 欲しい遊び場

欲しい遊び場としては「野球のできる広場」が39.3%と最も多く、次に「武庫川・仁川」で遊びたいが34.8%，3位が「公園」となっている。

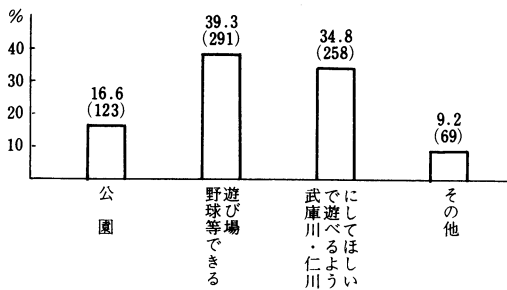


図44 段上地区に欲しい遊び場

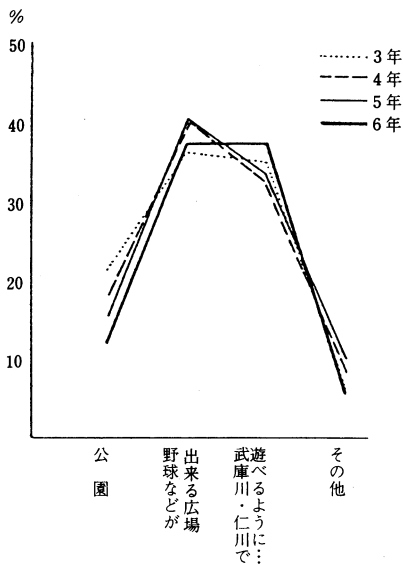


図46 学年と欲しい遊び場

3) —① 性別

性別にみると「公園」は女子が多く、「野球場」は男子が多い。また「武庫川・仁川で遊べるように」という要望は男・女ともに見られる (図45)。

3) —③ 居住地区別

〔段上町〕と〔仁川町〕は「球場」、〔一里山〕と〔田近野〕は「武庫川・仁川の利用」を希望している。

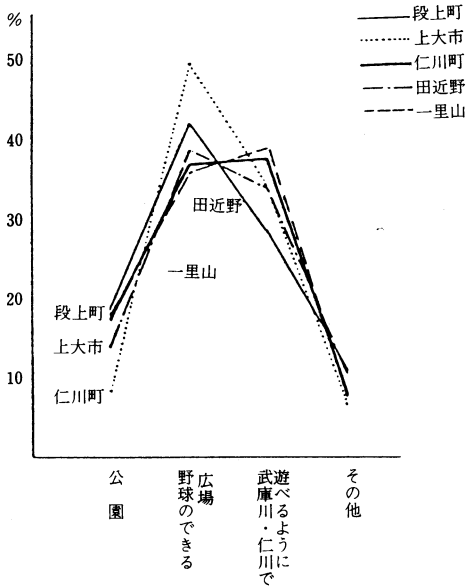


図47 居住地とほしい遊び場

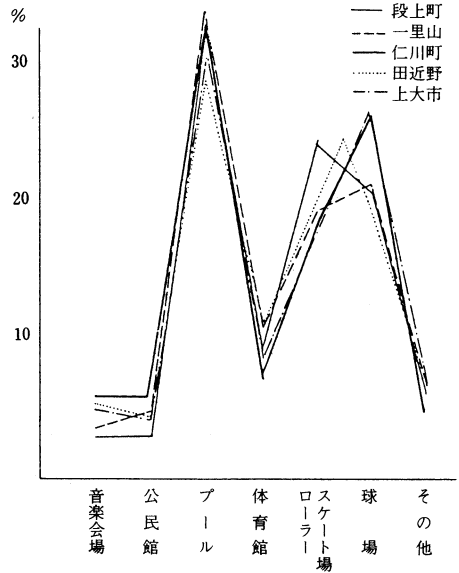


図49 希望施設と居住地区

4) 欲しい施設

欲しい施設としては「プール」が1位で31.5%、次が「ローラースケート場」の22.5%、3位は「球場」の21.3%である。

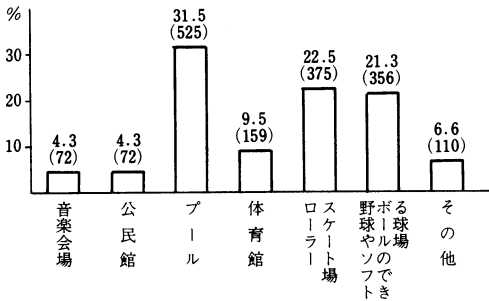


図48 段上地区に欲しい施設

4) ① 居住地区別

これを地区別にみると〔段上町〕と〔田近野〕が「ローラースケート」を欲している。「球場」が多いのは〔上田市〕と〔仁川町〕である。

5) 施設を設ける場所

施設の場所については「どこでもよい」が最も多く18.6%、次は〔一里山〕で15.9%、第3は〔段上町〕、第4が〔上田市〕となっている。

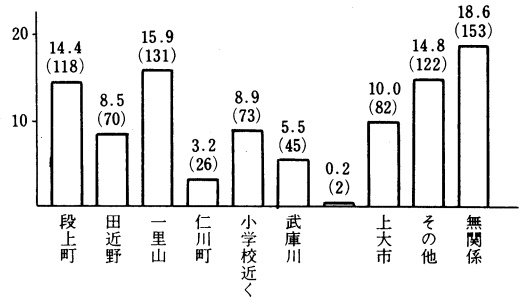


図50 施設の設置場所

5) ① 性別

男子は〔段上町〕、〔一里山〕が多く、女子は〔段上町〕、〔一里山〕の外に「小学校の近く」を望んでいる (図51)。

5) ② 学年別

6年生は〔段上町〕、〔一里山〕、〔上田市〕の希望が多く、5年生は〔段上町〕、〔一里山〕の外に「武庫川」が多い。4年生は「小学校の近く」が最も多く、次に「一里山」である。3年生は「一里

山」に次いで「段上町」を望んでいる(図52)。

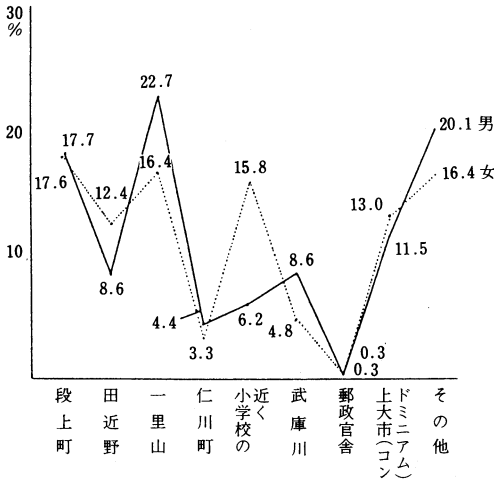


図51 性別と施設を作りたい場所

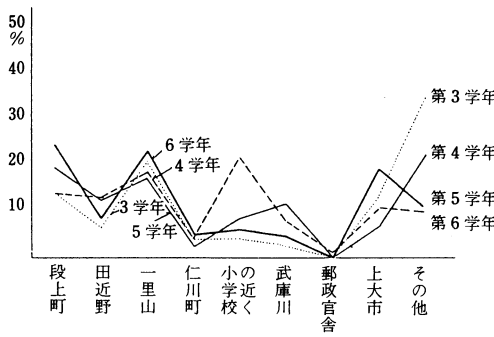


図52 学年と施設を設けたい場所

5) —③ 居住地区

居住地区別に見ると、それぞれ自分の地区を希望している(図53)。

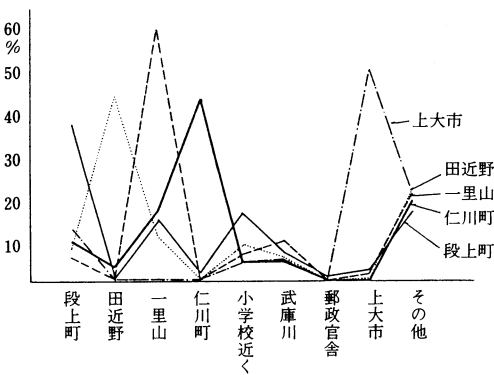


図53 居住地区と施設を希望する場所

要約

- ① 遊び場は不足していると考えられる児童が過半数を越えている。
- ② 遊び場として欲しいものは1位が「球場」(仁川町と段上町)、次いで「武庫川で遊べるように」(一里山と田近野)である。
- ③ 欲しい施設は「プール」が最も多く、次いで「ローラースケート場」、3位が「球場」。
- ④ 場所としてはそれぞれ自分の地区を希望している。

〔6〕 子供会と体育振興会
(日曜スポーツクラブ)の活動

地区の子供の健全育成のため「子供会」と体育振興会の「日曜スポーツクラブ」が組織されている。次にこれら二つの組織の活動に児童がどのようにかかわっているか概観してみよう。

(1) 子供会

子供会は子供の健全育成のため、地区または建物を単位に組織されている。現在、子供会として青少年愛護協会に参加しているのは、「田近野団地」、「上田市」、「コンドミニウム」、「一里山町」の四つである。子供会はいずれも地区の自治会の財政的支援と技術的指導によって運営されているものである。

子供会への加入と活動についてのアンケートの結果を要約すると、

- ① 子供会は全域に存在するわけではなく、一部にしか存在しない。平均の加入率は37.0%にすぎない。
- ② 加入者は男子よりも女子が多く、学年別には低学年の児童が多い。また地区別には「一里山町」、「田近野」が多い。
- ③ 子供会へ加入している児童の方が、屋外で遊ぶ日数や時間が多い。
- ④ 子供会へ加入している児童は塾へ通う割合が少なく、両者への加入は逆比例の関係にある。
- ⑤ 子供会の行事に参加するのは26.3%で、性別にみると女子が多く、学年別には低学年が多い。地区別には「田近野」、「上田市」、「一里山町」が多い。

子供会が組織されているのは団地やコンドミニアムのような独立してまとまったところか、自治会が活発な地区である。しかし「一里山町」のように任意加入制にすると体育振興会の日曜スポーツクラブと競合関係になり、加入者が減ったりする。またもう一つの問題は、子供会の面倒をみるのは婦人達であるが、まともな活動をするためには専門的な訓練を受けたリーダーが必要となり、たまたま選ばれた婦人の役員では職責を十分に果たすのは困難であるといったことがある。

(2) 体育振興会の日曜スポーツクラブ

この地区はもともと田園であったところに新しく作られた新興の住宅地であるから、伝統的な組織や慣行に制約されることが少なく、むしろ特定の機能を担った行政主導によって作られた組織の方が活発に活動している。

まず小学校の「PTA」が最も組織力を持っているが、これと密接な関係をもつものとして「青少年愛護協会」と「体育振興会」があり、この三者が協力して地区の活性化をはかっている。

「体育振興会」はスポーツを通し、住民の健康を保持するとともに住民の温かい交流をはかる組織であるが、この組織の活動に児童がどのように関わっているか、アンケートの結果を要約してみよう。

- ① 体育振興会の日曜スポーツクラブに加入している児童は23.5%で、活動に参加しているのは19.8%である。
- ② 加入しているのは女子が多く、また低学年の児童が多い。活動に参加するのも低学年が多い。
- ③ 学習塾に通う時間が多い児童はこの会への活動参加は少ない。
- ④ 体育振興会の行事への参加を見ると、男子は「ソフトボール」、女子は「盆踊り」が多い。5年～6年の高学年は「ソフトボール」が多く、低学年の3年～4年には「甲山登山」と「盆踊り」が多い。
- ⑤ 地区別には〔段上町〕と〔一里山町〕の児童は「登山」と「盆踊り」が多く、〔上中市〕は「盆踊り」と「運動会」、〔田近野〕では「ソフトボール」と「運動会」への参加が多くなっている。

む す び

段上地区には物理的・空間的にみていくつかの問題点が存在している。まず第一にこの地区には、一方において昭和30年代以前に開発された仁川町や一里山やその他の地区の一部にも見られるようなかなり良好な住宅地もある。しかし他方で、近年すすめられている小規模な開発においては全体計画がないまま、無秩序に開発がなされているため、道路用地が十分には確保されず、また道幅が整合しなかったり、迷路になるような地区もある。この地区にはゆとりのある住宅地と密集住宅地が混在しているが、全体としてみると、スプロールが進行している地区といえよう。

この地区には、なお田園緑地が残されているので、これから地区の全体計画や道路計画を適用することが出来れば、住み易い生活環境を作ることにも可能な筈であるが、それが為されずに、利潤のみを追求する零細業者の乱開発にまかされているのは残念なことである。

第二に、道路計画が先行した上で地域開発が実施されていないため、段上地区は段上西小学校と段上小学校区の境界の近くを交通量の多い道路が通っており、しかも舗道が十分には整備されていないので、通学児童にとってはかなり危険な状態にさらされている。またその他にも、一里山町から田近野に至る地点など危険な場所があるが、これらに安全な処置を構ずる必要があろう。

第三に、このように最近の小規模開発は無秩序な開発にまかされているため、道路用地だけでなく、公園・広場・緑地などのオープンスペースが十分でなく、またその空間配置にも問題が多い。例えば段上8丁目や上中市5丁目には公園や空地がなく、その分が新幹線の下の部分にいくつか設けられているが、位置的にも偏っている。

この地区には現在でも緑地や空地がかなり残されているから、これらを公園用地とすることが出来れば、この地区の生活環境としての快適性は保持されるはずであるが、それがなされないことは惜しまれる。

このような生活環境のもとでは子供の遊び場としての公園や広場に対する配慮も決して十分に

され得ない。

他方、この地区の社会的条件、すなわち社会構造の特質についてみると、この地区は大部分は昭和40年代の後半から新しく開かれた新興住宅地であるため、村落社会の伝統がなく、基礎集団としての自治会の基盤が弱いのにに対して、機能集団としてのPTA、体育振興会、青少年愛護協会が活発に活動している。

さいわいこれらの機能集団はいずれも児童の育成に関連した集団であり、児童の健全育成のための活動が活発になされており、同時にこれが成人のレクリエーションや親睦交流に役立ち、地域の活性化に貢献している。

したがってこの地区では、自然的・物的条件の悪さを社会構造の特質によってカバーし、そのことが児童の健全育成を助け住民の交流もかなり促進されている。

しかしながら、子供達の広場や遊び場に対する要求は決して十分に充たされているとは言いがたい。これは6割近くの児童が遊び場は「不足している」と答えているところから推察出来よう。

また要望されている遊び場は単なる公園よりも「野球等のできる遊び場」すなわち球場のような広いスペースのものであることがわかる。

さらに、近くにある武庫川・仁川という自然の資源を活用出来るようにという要望が強いのは注目される場所である。これがいま利用を許されないのは児童の危険を考慮してのことと言われるが、ごく近くに存在する自然的資源を児童達のために十分に活用するため危険の問題は別途に解決するように努力すべきであろう。

その他の参考文献

- ① 梶田正之編『子どもはどう発達するか』有斐閣、昭和55年。
- ② 柴谷久雄『遊びによる人間形成』黎明書房、昭和48年。
- ③ 井上健治『子どもの発達と環境』東京大学出版会、1979年。
- ④ M. J. エリス・森林外訳『人間はなぜ遊ぶか』黎明書房、昭和52年。
- ⑤ M. ピアーズ編・赤塚徳郎外監訳『遊びと発達の心理学』黎明書房、昭和53年。

付記 この調査を行なうにあたり、段上小学校 PTA 会長橋本 武先生、村田鈴子さん、体育振興会の前垣栄一先生、青少年愛護協会長の兼松てるさん、段上小学校の諸先生の協力をいただいたことを深く感謝いたします。